

# オスプレイ試験飛行 9月から

## —木更津駐屯地視察—



陸上自衛隊のオスプレイ 2機（来年度中に 17機）が実戦配備された木更津市では 9月から始まる試験飛行について防衛省から区長と漁業協同組合関係者に説明会（8/23）がありました。防衛省からの資料によると自衛隊独自の仕様となっている搭載装備品（無線機・救援セットなど）の機能確認の試験が 9月から約半年間行われる。又、米国で養成した操縦士等の練度維持訓練（離着陸訓練・ホバリング）がおこなわれるとのことです

「九条の会千葉県議員ネット」が 2020年 8月 24日木更津を訪問し「オスプレ来るな！ いらぬ住民の会」の野中さんから木更津駐屯地の様子の説明を受けました。

木更津基地は米軍基地で、それを自衛隊が日米地位協定 2-4-a で借りており、それ故年間 2800回ほど米軍も使用しているとの事。広さは「東京デズニーランド+デズニーシ」の 2倍ほど。木更津第一ヘリコプター団などの飛行は年間 25000回。輸送機 CH-47 や攻撃型ヘリ、要人用ヘリがひっきりなしに訓練しています。そこにオスプレイが 4500回/年飛び回ります。人員は今の 1100人にオスプレイ団の 430人が加わりヘリの一大拠点となります。大変なことです。

野中さんは、オスプレイ配備の問題点を指摘しました。「オスプレイが佐世保の水陸機動団のためにあり島嶼防衛を目的とするので、それを実現するには陸自のオスプレイだけでなく空自・海自の機能強化が必要になる。それ故自衛隊がオスプレイを軸に“攻撃的な”存在になっていく危険性がある」と。

又、木更津ではこれまで沖縄の米海兵隊の 24機と暫定配備の陸自の 17機のオスプレイ整備拠点だったが、今後は米海軍（横須賀）第 7艦隊のオスプレイ CMV-22 の整備拠点にもなる。これにもし横田基地米空軍の 10機の整備を木更津ですることになったら西太平洋で最大のオスプレイの整備・配備拠点になってしまう。平時から戦時までの訓練ならびに軍備の日米一体化の象徴が更に具体化されてしまう点も問題視しました。



オスプレイのオートローテーション（エンジンがすべて止まったとき安全に着陸する機能）が不十分であることも指摘しました。オスプレイの重量が重いため高度 300mでは落下が早く CH-47 のようには機能しません。最低でも 500m以上必要です。でも飛行高度は 280~300mなのです。危ない危ない・・・

防衛省は木更津では海を飛ぶから大丈夫と言いますが、東京湾は一大化学コンビナートであり石油コンビナートで多くの船が航行しています。もし事故が起きたらとんでもないことになるかと飛行行路の問題点も示唆しました。

鎌ヶ谷の下総基地には昨年からこれまで来なかった木更津のヘリ CH-47 が飛来しています。オスプレイが来る習志野空挺団の訓練と一体の下総基地です。木更津だけでなく全県的問題として鎌ヶ谷でも“オスプレイいらぬ”の運動を展開し平和な空を私たちのものにしていきましょう。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

\*活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。